

1	組織名称(略称)	ECHONET Consortium (ECHONET) http://www.echonet.jp			
2	分類	活動目的	フォーラム標準化	対象分野	サービス(宅内情報家電関連)
	技術MAP	活動エリア(注1)	-1	活動技術(注2)	0
3	目的	省エネルギーやヘルスケアの高度化等のために活用できるホームネットワークの技術開発と標準的な通信仕様の開発を行い、これを公開していく事を目的として設立。電力線や無線を利用したホームネットワーク「ECHONET」規格、および、ECHONET規格のソフトウェア実装量を軽くすると共にグローバルスタンダードな通信方式に対応するため物理層やMAC層を規格の対象外とした「ECHONET Lite」規格の策定及びその普及促進を図る。			
4	組織構成	<p>2014年度より一般社団法人化された。総会・理事会・評議会等があり、理事会の配下に下記の委員会・WGがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画運営委員会： 知財・法務WG、規格・認証WG、国際標準化WG、ECHONET Lite AIF認証構築WG ・技術委員会： システムアーキテクチャWG、スマートEMS検討WG、相互接続WG ・普及委員会： 国内推進WG、広報WG、海外推進WG <p>組織構成図</p> <pre> graph TD A[総会] --- B[理事会] B --- C[監事] B --- D[評議会] B --- E[企画運営委員会] B --- F[技術委員会] B --- G[普及委員会] E --- H[ECHONET Lite AIF 認証構築 WG] E --- I[規格・認証 WG] E --- J[国際標準化 WG] E --- K[知財・法務 WG] F --- L[システムアーキテクチャ (SA) WG] F --- M[スマートEMS (SEMS) 検討 WG] F --- N[相互接続 WG] G --- O[国内推進 WG] G --- P[海外推進 WG] G --- Q[広報 WG] </pre> <p>ECHONETのホームページより抜粋 (http://echonet.jp/organization/)</p>			
5	参加資格費	<p>本コンソーシアムは、幹事会員、一般会員、幹事準会員、一般準会員および学会会員より構成される。以下に、各会員の権利について主要なものを示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幹事会員 ECHONETに技術的貢献ができると認められた企業 規格案閲覧と意見提示、最終規格の承認(投票権)、総会への参加、理事会への参加、WGへの参加、フォーラム・プラグフェストへの参加 年会費: 3,000,000円 ・幹事準会員 幹事会員は自己の子会社又は子法人を準会員として登録することができる。 権利は当該幹事会員に準じる。 年会費: 無料 ・一般会員 			

		<p>ECHONETに関心がある世界中の全ての企業 規格案閲覧と意見提示、総会への参加、WGへの参加(上位委員会からの要請に基づく)、フォーラム・プラグフェストへの参加 年会費: 300,000円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般準会員 一般会員は自己の子会社又は子法人を準会員として登録することができる。 権利は当該一般会員に準じる。 年会費: 無料 ・学術会員 ECHONETに関心がある教育機関(大学研究室等) 規格案閲覧と意見提示、フォーラム・プラグフェスト等への参加 年会費: 無料
6	<p>主 要 メ ン バ (2017年10月現在)</p> <p>(注3)</p>	<p>メンバ数 277会員(日系企業241社、日系学術会員27会員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幹事会員: 7社 シャープ、東京電力、東芝、NTT、日立製作所、三菱電機、パナソニック ・幹事準会員: 39社 ・一般会員: 161社 ・一般準会員: 40社 ・学術会員: 30会員
7	<p>他団体・組織との 関 係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化団体としてはIECやISO/IEC JTC1に参画している。また、ZigBeeアライアンス、Wi-SUNアライアンスなどと協力している。また、中国のIGRS、韓国のKASHとも情報交換を主に連係している。 ・国際標準化状況としては、機器オブジェクトをはじめとするECHONET規格はすでに国際標準規格だが、ECHOENT Lite規格も国際標準とするべく国際標準化WGで取り組んでいる。ECHONET Liteの機器オブジェクトは2013年9月にIEC62394として標準化が終わり、ECHONET Lite規格は2015年に標準化が完了した。現在エコーネットの最新規格に整合すべくIEC62394をメンテナンス中である。
8	<p>T T C 活 動 と の 関 連 性 (注4)</p>	<p>■TTCの専門委員会活動と関係あり IoTエリアネットワーク専門委員会 □無し</p>
9	<p>活 動 状 況</p>	<p>2016年度活動 https://echonet.jp/activity_year/?y=2016を参照 2016年6月30日 第5回フォーラムの開催: 講演や各委員会、各WGの活動報告が行われた。 2016年12月7日 ECHOENT Lite規格普及促進シンポジウムを開催。 2017年2月10日 第6回フォーラムの開催: 講演や各委員会、各WGの活動報告が行われた。</p> <p>2017年度活動 https://echonet.jp/activity_year/?y=2017を参照 2017年6月28日 第7回フォーラムの開催: 講演や各委員会、各WGの活動報告が行われた。 2017年7月11日～12日 第1回プラグフェストを開催。 プラグフェスト: 会員企業各社が機器を持ち寄って相互接続を確認し実装情報を共有できる場。2018年2月に第2回を開催予定。</p> <p>注: ロードマップとして、ECHONET Liteによるホームネットワーク市場形成・普及拡大に向けたロードマップ[PDF:4.6MB]が以下のURLにて示されている。 http://echonet.jp/wp/wp-content/uploads/pdf/General/Download/Roadmap_2015.pdf</p> <p>[認証制度について] ECHONET規格、及び、ECHONET Lite規格の認証は、 ・製品がECHONET (Lite)規格に適合していることの証明</p>

		<p>・認証取得した製品の相互接続性の向上を目的として実施している。また、認証を取得した製品には商標を付与できるというメリットがある。具体的には下記のURLを参照のこと。</p> <p>http://echonet.jp/kikaku-ninsyo/</p>
10	設 立 時 期	<p>1997年12月9日 2014年4月に一般社団法人化</p>
11	本 部 所 在 地	<p>一般社団法人エコーネットコンソーシアム 〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目22番5号 新橋TSビル4階 TEL 03-6205-4142 E-Mail: info@echonet.jp</p>
12	関 連 標 準 化 技 術	<p>エコーネットとは、スマートフォンやコントローラから家にあるエアコン、照明などを制御、電力の無駄遣いを抑えるために家の電気代を把握するなど、スマートハウスを実現するための通信プロトコルである。エコネット規格を開発した後、エコーネット規格より簡単に使いやすさを重視したエコーネットライト(ECHONET Lite)規格が開発されている。</p> <p>[エコーネット規格書のダウンロード] http://echonet.jp/spec/</p> <p>ECHONET Lite規格書 Ver.1.12 (日本語版) ECHONET Lite規格書 Ver.1.12 (英語版)</p> <p>APPENDIX ECHONET機器オブジェクト詳細規定 Release J (日本語版) APPENDIX ECHONET機器オブジェクト詳細規定 Release H (英語版)</p> <p>ECHONET規格書 Version 3.21 (日本語版) ECHONET規格書 Version 2.11 (英語版)</p>
13	備 考	<p>・定款 https://echonet.jp/kiyaku/</p> <p>・知的財産権取扱規則 https://echonet.jp/ip/</p> <p>・規格に基づく製品の普及状況: <u>AIF仕様(旧SMA含む)</u> 空調機器 (2) コントローラ (74) 住宅設備機器 (20) 計測装置 (36) <u>ECHONETLite規格</u> 空調機器 (29) センサ (7) 住宅設備機器 (92) AV機器 (14) ミドルウェアアダプタ (9) 調理家事器具 (16) 計測装置 (45) コントローラ (105) コントローラ・ソフトウェア (5) <u>ECHONET規格</u> ホームゲートウェイ、緊急コールリモコン、電力計測・通信機能付AC、無線モジュール</p>

		ル、家庭用エアコン、ITアダプタ、PLCカメラ、電動シャッター、開閉センサー、人感センサー、リモコン（19） https://echonet.jp/product/echonet-lite/ に掲載
14	更 新 年 月	2017年10月

(注1)活動エリアは以下から最も適当な項目を選択し、その番号を記入のこと。

- 2: モバイル系領域を中心に活動を実施
- 1: モバイル系領域の活動を主に、固定系領域の活動も実施
- 0: モバイル系、固定系の両領域にまだがって活動実施
- 1: 固定系領域の活動を主に、モバイル領域の活動も実施
- 2: 固定系領域を中心に活動を実施

(注2)活動技術は以下から最も適当な項目を選択し、その番号を記入のこと。

- 3: APL(アプリケーション)領域の活動を実施
- 2: APL領域の活動を主に、MDL(ミドルウェア)領域の活動も実施
- 1: APLとMDLの両領域の活動を実施
- 0: MDL領域の活動を実施
- 1: NW(ネットワーク)領域の活動を主に、MDL領域の活動も実施
- 2: NW領域の活動を実施
- x: 該当せず等

(注3)日系企業とは親会社が日本企業かどうかで判断する。

(注4)「TTC活動との関連性」とはTTCの専門委員会やアドバイザリーグループの活動と関連しているかを示す記載とし、理由には具体的な専門委員会名、アドバイザリーグループ名と関連している部分等を記載する。

ECHONETのホームページより抜粋

(<http://echonet.jp/organization/>)